

シン・ニコニコ落語録其ノ三「東方落語・命蓮寺参り」

ごあいさつ

初めましての方は初めまして、そうでない方はお久しぶりでございます。笑々亭鳳双です。

今年5月からのニコニコ落語協会10周年記念企画「シン・ニコニコ落語録」、皆さまお楽しみいただけておりますでしょうか。

この企画、最初は皆さまに協会の懐かしいネタをもう一度お届けしようということでスタートしたはずなのですが、実は協会員にとっては自分が昔演った懐かしいネタを思い出す機会となりつつあります。（誰とは言いませんが、昔自分が演ったネタ名を聞いても内容を一切思い出せなかった、なんてこともあったりします。まあ私なんですけどね。）

せっかく作ったネタなんですから、タンスの奥にずっとしまっておくのではなく、たまには虫干ししてあげないといけませんね、ということで。

今回のネタ「命蓮寺参り」ですが、これは協会が一番最初に作ったCDである「東方落語録」（通称：無印）の一番最初に収録されていたネタです。まさに、協会の今日に至る10年間の同人活動の第一歩のネタと言っていいと思います。

ただ、制作当時はもう一つの「胸無姫」というネタをメインに制作していて、その制作の合間にふとこのネタを思いついたら、あれよあれよと出来上がってしまい、最終的には急遽CDに収録されるに至ったように覚えています。元ネタが「山号寺号」なので噺の筋が単純で作りやすかったことも大きいと思います。

ネタ自体が単純なだけにボケを令和版にアップデートしようと思っていたのですが、「咲夜さんパッドでG」やら東方五大老の名前を（途中まで）並べる件やら、今では死語になっているボケがかえって懐かしかったので、そのまま採用することにしました。（10年前、このネタを作ったとき一番やりたかったのが「咲夜さん」のボケだったのです。）今回始めた聞いた人は「なんて古いネタなんだろう」と思われるかもしれませんが、このような裏事情があったりします。

月日の流れは早いものでもう7月も終わりに近づいています。夏コミのない夏も早くも2回目です。コミケ雲のできる会場で一日中売り子をしていたことも、三密上等の連絡通路で会場の東西移動を敢行したことも、炎天下で最大手の壁サーの待機列に並んでいたことも、今では懐かしい思い出です。あの光景が再び戻って来る日は来るのでしょうか。

それでは、また次のネタでお会いしましょう。

※ご注意

本作品にある全てのコンテンツは無断転載禁止です。

ただし、台本を脚色・改変し、リアル・ネット問わず口演する場合のみ許可いたします。

その際はぜひ、ニコニコ落語協会までご連絡くださると嬉しいです。

なお、ウケなかった場合の責任は一切負いません。